

車両の安全性向上

車両の安全対策

▶運転士異常時列車停止装置

運転中の運転士に異常が発生し、運転ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキを作動する装置を全列車に設置しています。

また、車掌が運転状況に異常を感じた時に扱う非常ブレーキスイッチも設置しています。



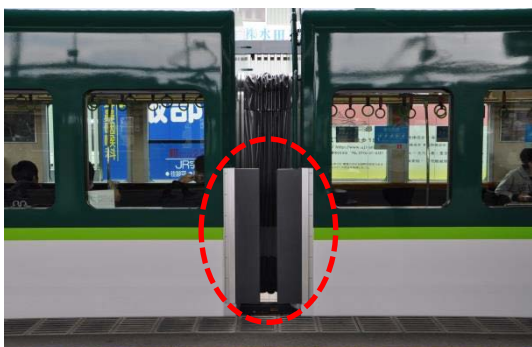
運転士異常時列車停止装置

▶列車運転状況記録装置

事故・トラブルが発生した場合に、その原因究明や再発防止策の立案に役立つために、列車の速度や位置、時刻、運転士のハンドル操作状況、ATSの動作状況などを記録する装置を全列車に設置しています。

▶連結面間転落防止装置

乗車時にお客さまが誤って車両の連結面間に転落する事故を防止するための装置を京阪線全車両に設置しています。



連結面間転落防止装置

▶ホーム検知装置

扉操作誤りによる転落事故を防止するため、京阪線 3000・10000・13000 系、大津線 600・700 形、800 系および鋼索線車両にホーム検知装置を設置しています。この機能を使用すると、ホームがない場所で扉が開けられない仕組みになっています。



ホーム検知装置

▶車両の転動防止ブレーキ

勾配のある駅などで停車している時に扉を開けた状態で車両が転動するのを防止するために、一部車両において、転動防止ブレーキ機能を新設しています。

▶戸挟み検知精度の向上

扉に人や物が挟まっていることによる事故を防止するため、京阪線と大津線の車両（一部車両を除く）で戸挟み検知精度の向上を図っています。

▶車掌知らせ灯の視認性向上

扉が全て閉まったことを確認する車掌知らせ灯の見誤りによる事故を防止するために、京阪線のほとんどの車両において車両の車掌知らせ灯の大型化とレンズ周囲につや消し黒色化粧シートを貼り付け、車掌知らせ灯の視認性の向上を図っています。



車掌知らせ灯